

装 備

< 装 備 >

3カ年の下積みトレーニングにおいて、我われは多種多様な装備についての研究・試用を行った。それらはエベレスト日本隊や各大学の遠征装備をはじめ、潜水の装備、魚、昆虫類の採集装備にまで至った。しかし、我われは出発前の最終段階において現地調達主義あるいは無装備主義に近いものとなった。この最低装備主義(Only One Bag主義)になった理由は以下のごとくである。

1. 重装備の場合の問題点

①税関 ②輸送費

1. ある程度のもは本部マナウスにおいて揃えることができる。
1. 民族調査の場合、その対象が文明人と
の接触が少なければ少ないほど大がかり

な装備(機材)を持ち込むのは困難。

1. マナウスから部落までのアプローチにおいて重装備では無理。
1. 調査眼目が広範囲なもの(計画立案段階においては魚類、昆虫類の調査も入っていた)から、民族調査一本にしぼったことによる装備の減少。
1. ボータを雇うのはFUNAIの関係等により困難。

以上のような理由ではあったが日本でないと揃えることのできないものや高価なものは日本から持ち込んだ。

次ぎに日本から持ち込んだ装備、マナウスで購入した装備、実際に部落に持ち込んだ装備のリストをかかておく。

装 備 リ ス ト

J…日本から持ち込んだもの

B…ブラジルで購入したもの

⑦, ⑧…実際部落に持ち込んだもの

頻, 稀, 無…使用頻度

項 目	使用	数 量	備 考
< チーム装備 >			
J テント	無	6人用 1	ハンモック生活のため全く不要。
⑦ ツェルト	無	4人用 1	
J, ⑧ ハンモック	頻	1×3	
			日本で購入した登山用のハンモックは機能性にかける。現地で購入したものは布地が広く、抜群の快適さ。

⑦コンロ		2	ガソリン用と石油用。前者の方が火力が強く有効。
⑦ポリ密閉容器	頻	1 5	フィルムの保管に威力を発揮したがもう一つ気密性が欲しい。
⑦ポリタンク	稀	3	ガソリン容器や水入れに用いたが、枕などに使え何かと便利である。
⑦懐中電灯	頻	3	夜間撮影の時のビント合わせにも使用する。
⑦カメラ	頻	5 0 mm×2 3 5 mm×3 ハーフ×2	“ 撮影 ” 参照。
⑦附属品	頻		三脚・ストロボ・リリース。
⑦テープレコーダ	頻	2	カセット式。携帯用中型と超小型。音質より耐久性が大事である。FM付ワイヤレスのものが威力を発揮するだろう。
⑦マグネット・テープ	頻	1 2 0 分×5 6 0 分×1 0	量的には丁度。空のテープに日本の歌などを入れていくと何かと便利。
⑦乾燥剤	頻		フィルムの保管、民具の防湿。キャラメル型のものが最も良かった。
⑧工具一式	稀		針金、かなづち、釘、釘抜。
⑦ザイル	無	9 mm×2 0 m	
⑦細 引	頻	6 mm×5 0 m	1 人当て 2 0 m は欲しい。クレモナや綿でも可。
⑧ティッシュペーパー	頻	3 0 巻	多目的に使用できる。
⑧裁縫用具	稀	2 組	タコ糸のような強い縫い糸がよい。
⑦接着剤	稀	2	何にでも使える。速乾性のもの。
⑦粘着布テープ	頻	5 巻	いわゆるガムテープは思ったより多くいった。あと倍は欲しい。
⑦フィールド・ノート	頻	1 0 0 × 4 0	8 × 5 のサイズの事務用カード。
⑦ノート	稀	1 0	あまり必要なし。
⑦ボールペン	頻	6 ダース	質・量とも満足いくものであった。
⑦マジック・インク	稀	1 ダース	太書き、細書きとも油性が良。
⑦サインペン(12色)	頻	2 ダース	スケッチや資料整理に好適。
⑦色鉛筆(12色)	稀	1 ダース	
⑦巻 尺	頻	2	2 0 m、2 m の 2 種。
⑦えのぐ(24色)	無	2 ダース	全てクレパスを使用した。
⑦クレパス(24色)	頻	2 ダース	手軽に使い、インディオへの土産としても好評。

① ホッチキス	頻	2	ブラジルでは高価なので針とともに必要なもの。
① ゴムバンド	頻	1箱	1000本入。
① 下敷	頻	3	クリップ付のものがよい。
① ペナント	頻	8	FUNAIなどには最適。
① シュラフ	頻	1×3	夏用のものが最適。代用としてシュラフカバーとバスタオルを併用してもよからう。
① エアーマット	頻	1×3	寝るのにはハンモックを使用するため使用しないが、何かとよく使った。
① タバコ	頻	10000本	ちょっとした礼に最適。
① 土産			FUNAI等、官公庁にはラジオやペナント等。インディオ部落へはビーズ、首飾り、小刀、おもちゃ等。
① 書類・書籍	頻		協力依頼書等英文書類、英和、ポ日各辞書、他参考書。
① P. H. 用紙	無	2	
① 乾湿計	頻	1	破損しやすいので、保管に留意。予備は必要。
① 雨量計	頻	1	
② ビニール袋	頻		大 中 小各々必要。
② 石けん	頻	30	2週間3名で1個。
② ハミガキ粉	頻	3本	
② ナイフ	頻	12本	
② フォーク	頻	12本	これはインディオへの土産としても使用できる。
② スプーン	頻	12本	
② 電池	頻	単1=20本 単2=30本 単3=90本	ストロボ、テレコ、電灯用。
② 食器	頻		主に皿、これもインディオへの土産となる。
② マッチ	頻	80	防湿に充分注意すること。
② ゴムぞうり	頻	6足	インディオ部落では抜群の威力を発揮。

<個人装備>		(全て×3)	
⑦上着		3	材質は麻綿でポケットは多いほうが良。
⑦下着		10	麻・綿が良。化繊は不可。
⑦靴下		2	〃
⑦手袋		3	
⑦靴		2	登山靴のような深いものは不可。運動靴が良。
⑦帽子		1	野球帽のようなつばのせまいもの。
⑦コンパス		1	あまり使用せず。しかし必要。
⑦時計		1	防水自動巻日付のついたものが良。
⑦セーター		2	薄手の純毛性のもの。
⑦ネクタイ		1	
⑦ジャケット		1	渉外用に欠かせない。
⑦雨具	頻	1	上下揃いのものもよいがオールナイロンのヤッケが最も機能性に富む。
⑦サブザック	頻	1	色々あった方がよい
⑦キスリング	頻	1	特大。
⑦ライター	頻	1	ガスボンベさ兌現地で入手できるのならガスライターが最適。
⑦パスポート		1式	
その他書類			

<輸送>

我われは、当初ほとんどの装備を日本から持ち込むことにしていたが、ブラジルまでのアプローチが空路であることや、乗り継ぎが3回もあること等を考え、結局日本からは制限の1人20Kg以内で装備をおさえることにした。しかし実際には1人当り30～40Kgとなり、アメリカやコロンビアの空港カウンターで一悶着あったが何とか加算料金をとられずに済むことができた。

本部のマナウスからヤノマムの部落までは小さな船であるため厳重なバックキングが必要とされた。日本からはキスリングやサブザック等で

荷物を運んできたのであるが、マナウス——ヤノマム部落間については全ての装備を木箱に詰め込んだ。しかし、衝撃や震動には強かったが防水性は全くなく、ナイロン袋につんだ装備も水でだめになったものがいくらかあった。フィルムや貴重品はポリ容器に入れば充分であるが、その他の装備類はやはり防水に留意したバックキング方法や輸送用具(ケース)を考えなければならぬだろう。

今回は使用できなかったが、プラスチック製の行李を使えばどうかと思う。まだ試用したことがないが防水性もあるし耐久性、それに軽量なのでいいのではなからうか。余裕があればポ

り容器の大きいものを別注するのもいいだろう。一斗カンもなかなかいいものであるが大きさの問題があり、長いものをパッキングできないのは困りものだ。

いずれにせよ、これらの運搬ケースを密封するガムテープは充分な量が必要である。

今回、輸送面で最も頭を悩ませたのはインディオの民具の運搬についてであった。学術資料である上、弓矢の長さが2 m以上もあったからである。ブラジル国外への民具持ち出しについては、INPA(Instituto Nacional da Pesquisa do Amangonia)=国立アマゾン研究所が全権を持っており、我われもこのINPAの持ち出し許可証、それにFUNAIの許可証を必要とされた。

持ち出し許可には手こずらずにスムーズにいったが、飛行機への積み込みに大きな問題があった。どれぐらいの料金か、実際飛行機に積み込むのが可能なのか、また別送手荷物扱いがとれるのかといったことを聞くため、幾度も航空代

理店に足を運んだが、このような長いものを積むケースはめずらしいらしく、はっきりとした答えは得ることが出来なかった。重量的には問題はなかったが、容積がぎりぎりであったことと、長さの問題があった。結局は塔乗当日に空港で交渉ということになったが、案ずるより産むが安しで何の問題もなく、また加算料金を払わずに通過してしまった。

我われはなるべく乗り替えを少なくするためマナウス—メキシコ—日本というルートを選んだが、メキシコの税関では荷物をボンド扱い(税関が保管)にしてもらい荷物を開けられずすんだ。

帰国路は運よく、どこかの国の税関でも好意的で、大学からの協力依頼書とINPA, FUNAIの書類によって全てフリーパスであった。

輸送にたずさわって、今回は和文と英文のパッキングリストしか持っていなかったが、中南米に行く場合、できればスペイン語のリストを用意したいものだ。(藤本)

＝カヌーにはインディオの

うしろに乗るべからず＝

カヌーに乗るときはインディオのすぐ後ろに乗ってはいけない。かみタバコをたしなむ彼らは、ツバを真上にブワーと吐くからだ。それが霧雨となって後ろの者にかかる。そのため何時間も後ろにいらると、ツバで顔中がベタベタになるのである。

Y. M. —